

令和4年度 第1回沖縄県SDGs推進本部 説明資料

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



令和4年5月30日

沖縄県企画部企画調整課 SDGs推進室

県民意見募集 インプット可能な 要素の情報収集

- ・ 県民アンケートの実施 (9/27~12/3)
- ・ 沖縄21世紀ビジョン、新たな振興計画(素案)等
- ・ 沖縄県SDGs実施指針に関するパブリックコメント等の県民意見
- ・ 若者の意見収集 (SDGs OKINAWAグランプリ2021, 高校生の会議等)
- ・ 県政出前講座等のSDGs研修及び勉強会のアンケート意見
- ・ 企業・団体が主体的に収集した意見 (イベント、アンケート) 等

骨子に関する 意見収集

- ・ 骨子(たたき台)のとりまとめ
- ・ SDGsアドバイザリーボード会議の意見収集 (12/16)
- ・ SDGs専門部会(5部会)の意見収集 (12/20~12/27)
- ・ 庁内関係部局の意見照会 (12/20~12/27)
- ・ 骨子のとりまとめ
- ・ 関係団体、市町村、パートナー登録団体の意見照会 (1/7~1/25)

素案に関する 意見収集

- ・ 意見聴取結果をもとに、素案(たたき台)のとりまとめ
- ・ 庁内関係部局の意見照会 (2/15~2/25)
- ・ 沖縄県SDGs推進本部 アクションプラン(素案)の決定 (3/1)
- ・ SDGs専門部会(5部会)の意見収集 (3/2~3/10)
- ・ 関係団体、市町村、パートナー登録団体の意見照会 (3/2~3/18)
- ・ SDGsアドバイザリーボード会議の意見収集 (3/22)
- ・ 庁内関係部局の意見照会 (3/22~3/24)
- ・ 沖縄県SDGs推進本部 アクションプラン(案)の決定 (3/28)

最終化

- ・ パブリックコメント (3/30~4/30)
- ・ 庁内関係部局の意見照会 (5/12~5/19)
- ・ 沖縄県SDGs推進本部 (5/30) ※アクションプランについて審議予定

1 アクションプラン策定の背景及び目的

- ◆ 様々なステークホルダーと連携しながら沖縄らしいSDGsを推進していくための基本的な指針を「沖縄県SDGs実施指針」として、令和3年9月に策定した。
- ◆ 県民、有識者、市町村、企業・団体等の様々な意見やSDGsの17のゴール及びターゲット等を踏まえ、同実施指針に位置づけた基本理念、優先課題などを対応した地域課題の解決とSDGsの目標達成に向けた目標及び実現に向けたアクション等を整理している。
- ◆ 「おきなわSDGs アクションプラン」の目標の実現に向けて、県民一人ひとりがSDGsを「自分ごと」として捉え、多様なステークホルダーが参画及び連携していく全県的なSDGsの展開を目指す。

2 沖縄らしいSDGsの基本理念

※沖縄県SDGs実施指針（R3.9策定）に記載

平和を求めて時代を切り拓き、世界と交流し、ともに支え合い、誰一人取り残さない、持続可能な『美ら島』おきなわの実現

基本理念は残すべき、あるいは残したい沖縄らしさと、変えていくべき沖縄の双方を含有し、継承と変革への沖縄の挑戦を示すものでもあります。

<沖縄らしいSDGsの視点>

- **平和を求める**…………… 歴史的特性や住民を巻き込んだ熾烈な地上戦の経験を踏まえた「平和」を希求する意思。
- **時代を切り拓く**…………… 県民一人ひとりが次の時代を切り拓く主人公、意欲的に前進し気運に溢れる社会を創造。
- **世界と交流する**…………… 県民一人ひとりが交流の主体、多様な交流を展開し魅力あふれる社会を創造する。
- **支え合う**…………… 沖縄の伝統に根ざす人と人のつながりを大切にする社会の創造
- **誰一人取り残さない**… SDGsの理念、17のゴールの達成に向けて基本となる視点。
- **持続可能**…………… 沖縄の魅力や優位性を活かし、経済、社会、環境が調和した経済発展を実現する。
- **美ら島**…………… 豊かな自然を守り、次世代、さらに次世代に送りつなげる視点

3 沖縄21世紀ビジョンの将来像

- ◆沖縄県は「沖縄21世紀ビジョン」において、県民が望む将来（2030年）の姿を5つの将来像で位置づけ。
- ◆SDGsの達成に向けた行動を重ね、時代の変化に対応した県民が望む将来像の実現を目指す。

4 優先課題

※沖縄県SDGs実施指針（R3.9策定）に記載

（People 人間）

- ①性の多様性（LGBT等）、障がいの有無、国籍など、互いの違いを認め合い、一人ひとりが大切にされ、あらゆる場所で活躍できる社会の実現（多様性の尊重、個人の尊厳）
- ②医療・福祉の充実、健康長寿と生きがい、子どもを貧困から守る子育てしやすい暮らし
- ③地域への誇り（しまくとぅばの普及・推進等）と夢・目標をもてる学びの確保、教育の充実

（Prosperity 繁栄）

- ④基幹産業として持続可能で責任ある観光（サステナブル／レスポンシブルツーリズム）の推進、観光との連携・相乗効果等も活用した産業振興（農林水産業におけるブランド化等）、県経済の基盤となる安定的な雇用
- ⑤日本とアジア・太平洋の架け橋となる物流・情報・金融の拠点
- ⑥気候変動に適応する強靱なインフラと交通網の整備

（Planet 地球）

- ⑦多様な生物・生態系や世界自然遺産を含む自然に囲まれた環境の保全、エコアイランドの実現、自然と調和したライフスタイル

（Peace 平和）

- ⑧基地から派生する諸問題の解決の促進、平和を希求する沖縄として世界平和への貢献・発信
- ⑨共助・共創型の安全・安心な社会の実現

（Partnership パートナーシップ）

- ⑩ユイマール（相互扶助）の継承、人の和・地域の和
- ⑪地域・世代・分野・文化等を超えた多様な交流と連携の創出
- ⑫世界の島しょ地域における技術・経験の共有と国際貢献・グローバル・パートナーシップ

5 SDGs推進における重要な視点

- ◆ 5つの主要原則（普遍性、包摂性、参画型、統合性、透明性と説明責任）、バックキャストの視点 等
- ◆ 取組を単体で捉えるのではなく、複数の取組の相互関係性や相乗効果を重視
- ◆ 未来を担う子ども達が潜在力を発揮できる社会、全ての人々が自分らしく生き生きと活躍できる社会の実現に向けて、「人間の安全保障（2005年世界サミット成果文書）の視点を重視
- ◆ アクションプランの全ての取組において「ジェンダー平等の達成と女性のエンパワーメント」を重要な手段として捉える。
- ◆ 国のSDGsの取組の方向性
（グローバルヘルス戦略、女性活躍、デジタル田園都市国家構想、グリーンエネルギー、海洋プラスチックゴミ等）

6 「SDGs推進の目標」及び「実現に向けたアクション」

- ◆ 12の優先課題ごとに「SDGs推進の目標」を設定し、SDGsのゴール及びターゲット、モニタリング指標としてのローカル指標を設定するとともに、具体的な取組事例を「実現に向けたアクション」として整理。
- ◆ ローカル指標については、国連の「グローバル指標」、内閣府がまとめた「地方創生SDGsローカル指標（2019年版）」、「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」に関連して検討されている指標等を踏まえ設定。
 - ※1 ローカル指標に関しては、現状値、目標値、参考（全国平均値等）を記載しているが、「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」に関連する指標については、令和4年度に目標値設定を含めた検討が行われるものもあることから、整理状況を踏まえながら記載していく予定。
 - ※2 国連における「グローバル指標」の見直し、内閣府の「地方創生SDGsローカル指標」の見直しが予定されており、アクションプランの指標も有識者意見も踏まえながら検証を行う予定。

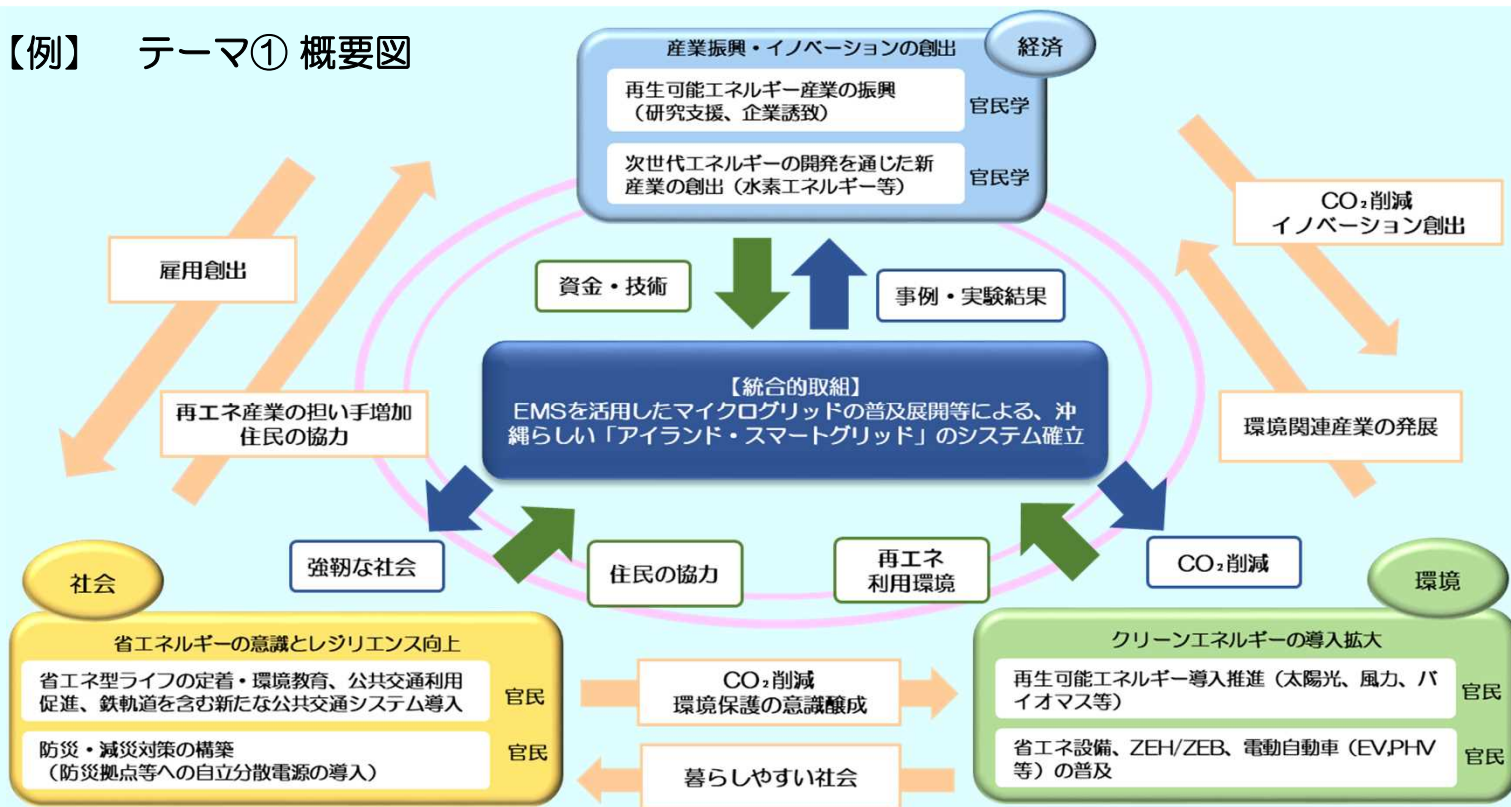
7 統合的な取組のモデル事例

◆ 様々なステークホルダーと統合的な取組の考え方や方向性を共有するため、具体的なテーマを設定し、経済、社会、環境の三側面から相乗効果が期待されるモデル事例をまとめた。

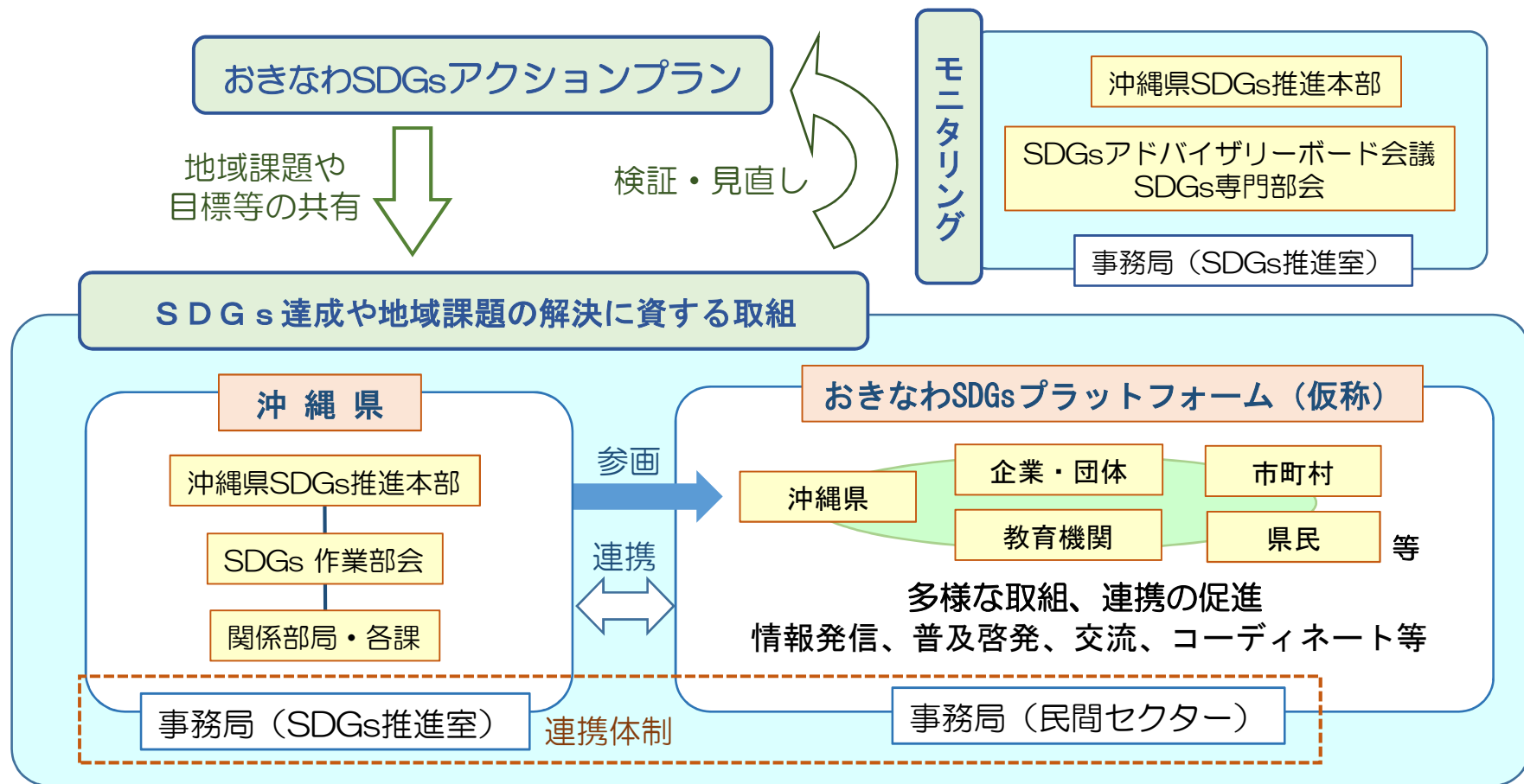
※有識者会議における意見等を踏まえ、テーマの追加に向けた検討を行うことを想定している。

- テーマ① 低炭素で災害に強い、沖縄らしい島しょ型エネルギー社会
- テーマ② 食品ロス削減を含めたサーキュラーエコノミー（循環経済）の展開
- テーマ③ 健康長寿の実現とスポーツ振興
- テーマ④ 子どもの貧困解消と経済成長・働き方改革
- テーマ⑤ 多様な人々が活躍できる地域づくり

【例】 テーマ① 概要図



- ◆ 「おきなわSDGsアクションプラン」を踏まえ、SDGs達成や地域課題の解決に資する取組を促進
- ◆ ステークホルダーの取組や連携を促進する「おきなわSDGsプラットフォーム（仮称）」を創設する予定
※試行的に「おきなわSDGsパートナー」登録団体を対象に事務局機能を運用
- ◆ 多様なステークホルダーのパートナーシップによる多様な連携を促進する体制の構築を目指す。
- ◆ 毎年度、県及びプラットフォームの取組状況を含めたモニタリングや検証を行い、アクションプランの見直し等の検討を行う予定。



- ◆多様な連携や交流を目指し、県内外のステークホルダーが参画可能な枠組みを構築する予定。
※試行的に「おきなわSDGsパートナー」登録団体を対象に事務局機能を運用
- ◆会員登録、情報共有等の仕組みを検討（システム開発を含む）、夏頃を目処に運用開始を予定。
- ◆事務局にコーディネーターを配置し、相談・マッチング等の事業化支援等に対応する予定。

おきなわSDGsプラットフォーム（仮称）

会 員

県 内

SDGsの達成、地域課題の解決に連携して取り組む県内の団体・個人

- ・県内の企業・団体、教育機関
- ・県内の市町村
- ・県内に在住する個人

登録・認証団体

県 外

県内のステークホルダーとの連携・交流を希望する国外・県外の団体

- ・県外の企業・団体、教育機関
- ・県外の地方自治体
- ・国外の企業・団体・教育機関

普及啓発 Promotion

- ・普及啓発イベント
- ・情報発信（ポータルサイト等）

交流・連携 Partnership

- ・セミナー・交流イベント

参画 Participation

- ・各種ステークホルダー会議

プロジェクト立案

Project Planning

- ・コーディネート、事業化支援

事務局（民間セクター）

- ◆ これまでは「SDGsを知ってもらう」、「SDGsに取り組み始める」の視点を重視。
- ◆ 県民へのSDGsの認知が進んでいる状況や県内企業・団体における機運が高まっていることを踏まえ、SDGsに関する取組を深化・加速する必要がある。
- ◆ 県の全庁的な取組や多様なステークホルダーの取組を通じたSDGs推進の加速を目指す。

知ってもらう。

SDGsの認知度
R2 33.4% → R3 69.5%

ポータルサイト等の情報発信
各種イベントの推進又は協力
県政出前講座の講師派遣 等

学習指導要領を踏まえた
教育分野での対応促進等

取り組み始める。

県の推進体制の構築
(各種計画反映、全庁的な推進)

各部局における施策展開

「おきなわSDGsパートナー」登録制度

より広く知ってもらう。 深く知ってもらう。

- ・ SDGsの普及啓発の促進
- ・ 県内のSDGsの取組の発信
- ・ SDGs達成状況等の共有（モニタリング）

具体的な取組を促進する。

- ・ 全庁的なSDGs推進の加速
- ・ プラットフォームを通じた事業化支援
- ・ SDGs登録認証制度とインセンティブ形成

ステークホルダー間の 連携を促進する。

- ・ プラットフォームを通じた連携・交流促進
(ステークホルダー会議、交流イベント等)
- ・ 官民の連携促進
- ・ 連携に向けたコーディネート強化